

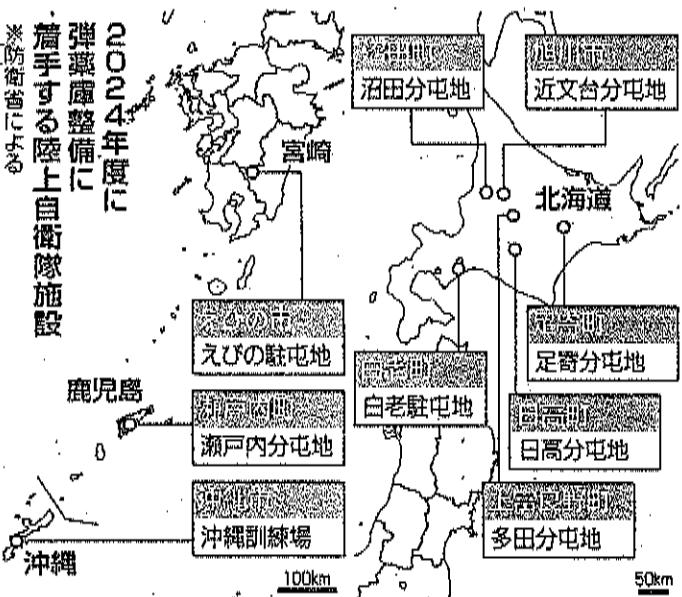
政府来年度 沖縄などで着手 4道県の力所整備

防衛省は2024年度、北海道、宮崎、鹿児島、沖縄の4道県の陸上自衛隊施設の力所で弾薬庫の整備に着手する方針を固めた。他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力（敵基地攻撃能力）にも使う長射程ミサイルなどの保管先を増やし、戦闘継続能力（継戦能力）を強化する狙いがある。複数の関係者が明らかにした。

ミサイルの保管先は荷事（通じて）安全対策を含む地元への丁寧な説明が求められるそうだ。弾薬庫は現在、全国に約3200棟あり、32年度までに約130棟を増設する方針。昨年12月に決定した「国家安全保障戦略など安保関連3文書」に、長射程ミサイルなら弾薬の確保と併せて整備が明記された。23年度は青森、大分両県内に各2棟ずつの整備を始めた。

24年度は北海道の白老駐屯地（白老町）と近文台駐屯地（旭川市）、多田（上富良野町）、足寄（足寄町）、沼田（沼田町）、日高（日高町）の各分屯地で弾薬庫整備のための調査を実施。

「弾薬庫」も呼ぶ。安全のため地面に穴を掘つて造成すべり式を設けた地中式や、地表に穴を盛つて造成する地上覆土式などがある。政府は昨年決定した国家安全保障戦略など安保関連3文書にて、他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力（敵基地攻撃能力）の保有と長射程ミサイルの取得推進を明記。戦闘継続能力を強化するため弾薬の備蓄を増やす方針も掲げた。保管先として2023年度までに弾薬庫約130棟を整備する。



2024年度に着手する陸上自衛隊施設
※防衛省による

防衛省が2024年度に4道県9カ所で弾薬庫の整備に着手するのは、他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力にも使う長射程ミサイルを多数取得するため、他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力向上と自衛隊の戦闘継続能力向上を図るために、大幅に備蓄を増やすため、保管先も必要になる。

ただ、保管する弾薬の種類は「防衛能力が明らかになる」（防衛省幹部）として公表されず、周辺住民が知りなづかにリスクが高まるとの懸念もある。

政府は昨年12月に策定した国家安全保障戦略で反撃能力の保

「敵基地攻撃能力」にも対処

防衛省が2024年度に4道県9カ所で弾薬庫の整備に着手するのは、他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力向上と自衛隊の戦闘継続能力向上を図るために、大幅に備蓄を増やすため、保管先も必要になる。

ただ、保管する弾薬の種類は「防衛能力が明らかになる」（防衛省幹部）として公表されず、周辺住民が知りなづかにリスクが高まるとの懸念もある。

政府は昨年12月に策定した国家安全保障戦略で反撃能力の保

種類・数を公表されず

26年度には陸上自衛隊の12式地対艦誘導弾の射程を千米程度に延ばす「能力向上型」を地上部隊に配備。海上自衛隊のイージス艦から撃つ米国製巡航ミサイル「トマホーク」も26年度に導入する。トマホークは全長約6m、12式の能力向上型は9m程度と大型にわたる見込みで、新たな保管先が必要になる。

防衛省は23～27年度の5年で約70棟、32年度までにさらに約60棟を整備する方針。23年度は

任記者会見で、弾薬庫の整備が不安を抱く住民や地元自治体に保管する弾薬の種類などを説明するかどうかを問われ、「必要があれば説明を尽くしたい」と述べた。ただ、政府は26年度から部隊配備を予定する長射程ミサイルについて「具体的な配備先は決まっていない」（浜田謙一前防衛相）と繰り返してきた。野党からは「真っ先に他国の攻撃対象となる」（共産党の小池晃書記局長）として、保管や配備先を明らかにするよう求める声が出ていた。

24年度は北海道の白老駐屯地（白老町）と近文台駐屯地（旭川市）、多田（上富良野町）、足寄（足寄町）、沼田（沼田町）、日高（日高町）の各分屯地で弾薬庫整備のための調査を実施。宮崎県えびの市のえびの駐屯地で2棟、沖縄県沖縄市（那覇市）の沖縄訓練場で5棟の設計を始める。鹿児島県瀬戸内町の瀬戸内分屯地では3棟の建設用地を取得する。経費として概算要求は124億円を計上した。

木原稔防衛相は13日の就任式で計4棟の新設に着手した。26年度には全国で工事が加速する見通しで、防衛省幹部は「まずは反発が少ない」ところから整備を進める」と明かにした。

海自大湊地方総監部（青森県むつ市）と陸自大分分屯地（大分市）で計4棟の新設に着手した。26年度には全国で工事が加速する見通しで、防衛省幹部は「まずは反発が少ない」ところから整備を進める」と明かにした。

弾薬庫の整備が進む一方、長射程ミサイルを何発程度保有するのかや、どの部隊が運用するのかどうした計画は明らかにしていない。19年には陸自富士島駐屯地（沖縄県宜野湾市）で、地元への十分な説明なく火力の強い迫撃砲弾などを保管していることが発覚し、島外に一時撤去した経緯もある。事前に丁寧に説明せずに長射程ミサイルの保管を進めれば、各地で混乱を